

## この秋、読書デビューの方におすすめの本

朝夕の風に秋の涼しさを感じ始める今日この頃となりました。まさに、読書の秋を迎えています。そこで、何か一冊本を読みたいなと思っているあなたに、いろいろな分野の本を紹介します。

1冊目は、千葉公慈著『仏教から生まれた意外な日本語』です。

「ありがとう」「我慢」「どっこいしょ」など私たちが普段なにげなく使っている日本語には、仏教由来のものが意外に多くあります。それらの言葉の本来の意味や成り立ちが楽しく学べる本です。日常語に潜む語源を掘り起こすことで、古人が心の拠り所にした知恵の数々を現代の私たちに伝える一冊です。

2冊目は、板木利隆監修『新・野菜の便利帳 おいしい編』です。

食欲の秋をあらゆる角度から楽しめる一冊です。野菜の魅力が、実、豆、葉、香、根などと、今までにはなかったジャンルで紹介されています。また、栄養成分と効能、ルーツや栽培、野菜の魅力を引き出すレシピや、産地表示の日本地図や旬が分かるカレンダーなど、野菜の最新情報が満載です。日本食品標準成分表七訂に準拠しており、健康を考えるために役立つ本です。

3冊目は、C・ロジャー・メイダー作・絵『まいごになったねこのタビー』です。

この本の主人公は、雌のきじ猫タビー。タビーは、小さい頃から、静かな田舎町で優しいおばあさんに大変かわいがられて育ちました。彼女の至福の時は、おばあさん愛用のふわふわスリッパに顔をうずめて、ごろごろとノドをならしながら寝ているとき。ところが、そんな彼女に一大事が……。おばあさんが、大きな街に住む娘さん一家と暮らすため、引っ越しする際、うっかり彼女を忘れてしまうのです。トラックを追いかけ、森の中で迷子になってしまうタビー。そこから、彼女の新しいお家探しがはじまるのです。いろいろな人たちとの出会いの中で自分を信じ、突き進んだ彼女を待っていた家の住人は一体どんな人たちだったのでしょうか。美しいこの本を生み出した作者、C・ロジャー・メイダーは、写真のように緻密に描くスーパーリアリズム絵画で活躍する画家で、この絵本は、彼のデビュー作品です。余談ですが、この愛らしい猫のモデルは、彼の飼い猫です。このような冒険談があったのでしょうか。リフレッシュしたい方は必見です！

4冊目は、『若冲の衝撃』です。

今なお続く日本画ブームのきっかけとなった天才絵師・伊藤若冲の全てが分かり、初心者からでもおすすめできる解説本です。全くの無名絵師であった若冲を発見した、ア

メロカ人コレクター、ジョー・D・プライス氏が収集した作品を中心に、若沖の魅力に迫ります。また、若沖の人生、さらにはその絵の魅力にとりつかれ、日本画の大コレクターとなったプライス氏自身の物語や彼が語る日本画の魅力、見方も掲載しています。

読書の秋に、かけがえのない一冊の本と出合うため、ぜひ図書館へお越し下さい。